廣讃寺ジャーナル

第22号
(発行所)
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341

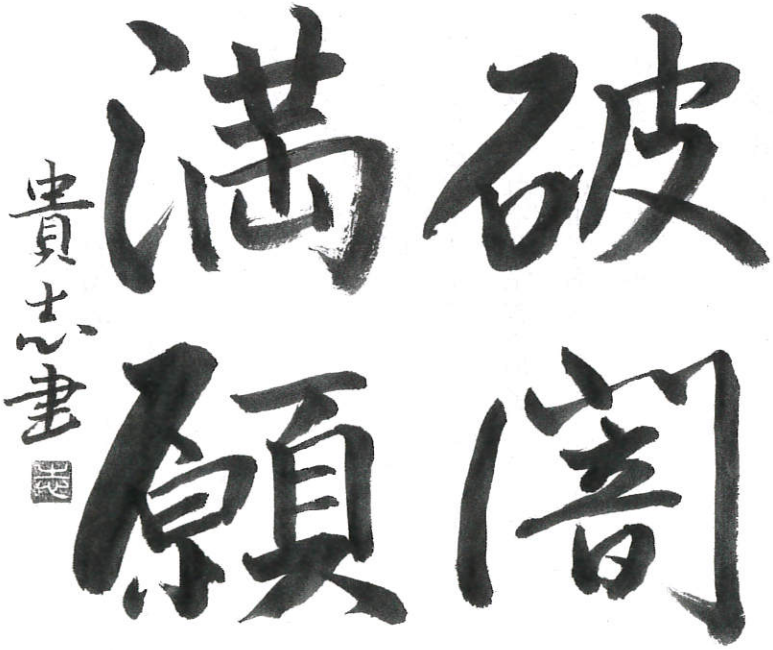
新春

会う人ごとに「明けましておめでとう」という。新年だからといって喜ぶこともないし、といって拗(す)ねる必要もない一種の外交辞令のようなものだ。相手もあまり喜んでいるようにはみえない。老境になってみると去る年、来る年まあまあ同じようなものだ。同じようだということはまあまあ健康である証拠かもしれない。病を得て痛いとか苦しいとかの状態にあるならば、こんな悠長なことはいっておれないはずだ。

八十年も前の事だ。正月になれば必ず母方の祖母が私たち兄妹に足袋と下駄(げた)を持ってきてくれたものだ。暖かくうれしかった。今は足袋屋も下駄屋もあまりみなくなった。

マスコミは例のごとく役職の方々の新年のあいさつを大きく報道している。広告として見ればうなずけるところもあるが、信念からほとばしる言葉だとして考えてみると情けない次第である。毎年毎年人は代われど同じような公約の並列である。新年にあたってまず一つの事でいいからそれを仕上げる人物を待望する。それを基盤にして次の事業を始めることだ。何一つ出来上がっていないのが日本の現状である。

老境に入った今、身辺をきれいにしてやり残しのない一生でありたいと思うのである。



聖人のおことば

竊以難思弘誓度難度海大船
無礙光明破無明闇慧日

読み方

竊におもんみれば、難思の弘誓は難度海を度する大船、無礙の光明は無明の闇を破する慧日なり。

教行信証の序である。大無量寿経による南無阿弥陀仏こそ人類救済の本義であることをまず述べてみえるのである。その南無阿弥陀仏についての仏の言葉(経)を私心をすてて素直にあつめましたという意である。私たちの浅はかな考えの遠く及ばぬ「広大なる仏智」のみが人生の指針であることを示されてみえるのである。私たちの如何ともしがたき煩悩の根元である「自力傲慢」を無限の光をもって悟らしめ下さる仏智を示されているのである。

和讃に曰く

自力諸善のひとはみな
仏智の不思議をうたがえば
自業自得の道理にて
七宝の獄にぞいりにける

私たちは常に仏智の加護の下にいるのだ。仏智の下にあるを知った時、同朋心は生まれ差別は消滅し世の平和は生まれる。イスラエル・パレスチナの戦乱の終わりなき姿がそれぞれ宗教に根差しているとするならば、とんでもない事である。相ともに仏者としての自信を深めようではないか。

住職童話

その日アナンはたった一人でお釈迦様のお供をしていた。アナンの心はうきうきしていた。それは十日前にベロンからの使者がやってきた時のことだ。使いの者とお釈迦様の会話をそばにいたアナンは聞いたからであった。アナンは日ごろから思い詰めていた事があった。「お釈迦様はいつも極楽は美しい国だと申されてみえますが、見

られたことがありますか」すると、
「私は見たことも行ったこともないよ」と返事をされた。アナンは少しばかりいばってつづけました。「見たこともない者がそんなことを人に話していいでしょうか」と。ニコニコしながらお釋迦様は「アナンよお前はうきうきしてるネ」。
「そうですお釋迦様、今日はベロンという村に行くからです。ベロンには大きな滝があって涼しくて花いっぱいだからです」
ここでお釋迦様は静かにやさしく次のようにお諭しになりました。「私は極楽にみえるアミダ様のお言葉を世の人々に伝えているだけですよ。お前が使者の言葉を聞いてまだ見たこともないベロンが好きになったように」
そうだった、そうだ、そうだ、アナンは何遍も何遍も心で叫んだ。
やがて十大弟子の一人としてアナンは多聞第一と称されることになった。

私の母さん（二）

（まさ女）

隣のまあちゃんうちで遊んで飽きちゃって、うちに戻ると母ちゃんがいた。小学一年生おなかをすかせてお昼に戻ると母ちゃんがいた。中学二年生クラブを終えて薄暗くなって戻ると母ちゃんがいた。会社に勤めお友達と夜遅くまでおしゃべりして帰ると母ちゃんがいた。母ちゃんはいつもいたし、いつも同じように言葉を掛けてくれた。慰めの言葉、励ましの言葉、おしかりの言葉。それはうれしかったし気に障ったりもしたが、結婚し遠く離れたが年に五、六回はいわゆる在所見舞い（里帰り）をした。母ちゃんはいつもいた。
最近、兄から「母ちゃんがおかしいぞ」との便りがあった。部屋いっぱいに押し入れの衣類を広げたかと思うとそれをまたもとに戻す。畳むことはしないから押し入れは山と重なる。脱いだり着たりを繰り返す。「食事は」と兄に尋ねる。
「こぼすは、あけるは、幼児よりもっと悪い」
兄嫁に最敬礼をして帰る。
母ちゃんを取りまいて私たち兄妹はいつも貧しかったが楽しかった。日本の家庭はそんなふうであった。
後日兄から「母ちゃんは村の施設へ入れてもらったよ」と伝えてきた。
「老」とは何か。私もそれに近づいている。「老とは何か」答えの出来ない日々をそれらしく私は生きている。

十二月三十一日（木）三時　歳末勤行
十一時半～一時まで
除夜の鐘

※行事予定

一月一日（祝）十時　修正会
九日（土）七時　同朋委員会・例会
十九日（火）二時　学習会
二十八日（木）十時　二十八日講・女人講

二月十三日（土）七時　同朋委員会・例会
十九日（金）二時　学習会
二十八日（日）十時　二十八日講・女人講

学習会　演劇